

2017年度点検・評価シート

※下記の指摘事項、課題を踏まえて、Ⅱ点検・評価 Ⅲ【達成目標】欄を記述してください。

(進捗状況を【現状説明】に記述し、必要に応じて新たに【目標】を設定する。)

2016年度大学評価（認証評価）結果指摘事項 なし
2016年度外部評価委員会指摘事項 なし
前年度からの課題（2016年度点検・評価シート IV次年度への課題 より転記） 障がいのある学生の受け入れ方針および学修支援体制について具体的に検討する。

I 評価項目・担当部局

対象部局	国際関係学部
評価基準 5	学生の受け入れ 【自己評定 B】
点検・評価項目(1)	5-1 学生の受け入れ方針を明示しているか。
評価の視点	求める学生像の明示 当該課程に入学するにあたり、修得しておくべき知識等の内容・水準の明示 障がいのある学生の受け入れ方針
点検・評価項目(2)	5-2 学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。
評価の視点	学生募集方法、入学者選抜方法の適切性 入学者選抜において透明性を確保するための措置の適切性
点検・評価項目(3)	5-3 適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。
評価の視点	収容定員に対する在籍学生数比率の適切性 定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する対応
点検・評価項目(4)	5-4 学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。
評価の視点	責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。

Ⅱ 点検・評価 対象期間は2016年4月～2017年5月までとする。(教員数、学生数などのデータの基準日は2017年5月1日)

【点検・評価項目ごとの現状説明】

5-1	<p>国際関係学部は、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに基づき、異文化理解の感覚とアジアの地域言語及び英語の運用能力を持ち、グローバル社会の一員として国際協力や国際交流に貢献できる人を育てるために、下記のような人物を求める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. グローバル社会や多文化社会を学際的に学ぶのに十分な基礎学力を有する人 2. 異なる価値観や多様な社会に対する共感力と理解力を持っている人 3. 国際社会で起きている諸問題に対する洞察力と批判力を養いたい人 4. アジアの地域言語と英語の運用能力を身につけたい人 5. グローバル社会の一員として国際協力や国際交流に貢献する意欲を持っている人 <p>障がいのある学生の受け入れと学修支援については、教務委員会等における長期的な課題として検討を継続している。</p>
5-1	<p>以下の評価の視点について、新たな取組の有無、または、継続している取組の成果の有無を【 】内に○・×で記入し、○の場合はその内容と結果を記述してください。</p> <p>学生の受け入れ方針の策定について【×】</p> <p>具体的事例：</p>
5-2	<p>入学者選抜は、公平性と透明性の原則に則って、適切に行われている。「拠点校からの入学者数」は減少傾向に歯止めがかかっていない。「高大の定期的な情報交換会が組織され、学部の授業や行事等に生徒を参加させている拠点校」についても、これまで埼玉県立坂戸高校と高大連携を進めてきたが、高校側の担当者の異動などの影響で、2016年度には行われていない。ただ、ASIA MIX 等、学生主体の行事への情宣を行うなどの事業は継続している。</p>
5-2	<p>以下の評価の視点について、新たな取組の有無、または、継続している取組の成果の有無を【 】内に○・×で記入し、○の場合はその内容と結果を記述してください。</p> <p>(1) 学生募集方法、入学者選抜方法について【○】</p> <p>具体的事例：学部HPを年間 200 回以上更新するなど、受験生向けに学部の日常的な活動を発信する体制が定着している。一般受験の出願者の停滞傾向に歯止めがかかった要因のひとつであると考えられる。</p> <p>(2) 入学者選抜において透明性を確保するための措置について【×】</p>

	具体的事例：
5-3	在籍学生数の管理については、学部教授会における合否判定で、過去の入学手続率、入学定員超過率等を参考に適正に行っている。2013～2017 年度入試の入学定員に対する入学者数比率（入学定員充足率）の学部平均は 1.12 倍で、適切である。学科別では、国際関係学科が 1.15 倍、国際文化学科が 1.09 倍で、両学科とも問題がない。2017 年 5 月 1 日現在、学部の収容定員に対する在籍学生数比率（収容定員充足率）は 1.13 倍で、適切である（d1-表 4、B5-22 d2-表 33）。
5-3	以下の評価の視点について、新たな取組の有無、または、継続している取組の成果の有無を【 】内に○・×で記入し、○の場合はその内容と結果を記述してください。 (1) 収容定員に対する在籍学生数比率について【○】 具体的事例：学部執行部において、2016 年度入試を総括し、定員超過を避けるための工夫を慎重に検討した。 (2) 定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する対応について【○】 具体的事例：学部執行部において、2016 年度入試を総括し、定員超過を避けるための工夫を慎重に検討した。
5-4	学生募集と入学者選抜の適切性については、学部の広報委員会を中心に随時検証を行っている。具体的には、前年度入試の総括を学部長、学科主任などからなる広報委員会において行い、その総括とともに当該年度の入学試験実施要綱案を年度はじめの教授会に提案して、審議・承認を受けている。さらに、毎年度の自己点検・評価においても定期的な検証を行っている(B5-11)。
5-4	以下の評価の視点について、新たな取組の有無、または、継続している取組の成果の有無を【 】内に○・×で記入し、○の場合はその内容と結果を記述してください。 学生募集および入学者選抜の検証に関する責任主体・組織、権限、手続きについて【×】 具体的事例：

【効果が上がっている事項】

5-1	
5-2	
5-3	
5-4	

【改善すべき事項】

5-1	障がいのある学生の受け入れ方針および学修支援体制について検討する必要がある。
5-2	「学生の成長」の観点および学部教育のコアとなる主体性のある学生を確保するために、選抜方法を再検討する必要がある。
5-3	2018 年問題を念頭に、過不足のない入学定員管理のための計画的取り組みを検討する必要がある。
5-4	

Ⅲ 【達成目標】 目標の進捗状況は、「S：完全に達成」「A：概ね達成」「B：やや不十分」「C：不十分」で、評価する。

達成目標	目標達成の指標となるもの		評価					
			2014	2015	2016	2017	2018	
中期目標 (2014～ 2018)	5-2,5-3 安定的な志願者・入学者が確保できている。推薦入学者の適正な比率が保たれ、一定の学力水準が維持されている。	入学定員の適正な確保。 推薦入学者の比率が 50%以下である。	→			A	A	
	5-1 障がいのある学生の受け入れ方針および学修支援体制の整備	障がいのある学生の学修支援体制がおむね整備されている。	→			C	C	
	5-2 学部教育のコアとなる意欲的な学生の確保	拠点校からの入学者数（学部）30 名 高大の定期的な情報交換会が組織され、学部の授業や行事等に生徒を参加させている拠点校の数：5 校以上	→			C	B	
16 年度 目標	5-3 入学定員を適正に維持する。	入学定員超過率が適正な範囲に（1.00～1.13）ある。	→			A		
	5-2 推薦入学者の適正な比率を維持する。	推薦入学者の比率が 50%以下である。	→			A		
	5-1 障がいのある学生の受け入れ方針および学修支援体制の検討	左記のことに関して教務委員会および教授会において検討がなされている。	→			C		
	5-2 学部教育のコアとなる意欲的な学生の確保	拠点校からの入学者数（学部）20 名				C		

		高大の定期的な情報交換会が組織され、学部の授業や行事等に生徒を参加させている拠点校の数：5校以上				C			
17年度 目標	5-3 入学定員を適正に維持する。	入学定員超過率が適正な範囲に（1.00～1.13）ある。				A			
	5-2 推薦入学者の適正な比率を維持する。	推薦入学者の比率が50%以下である。				A			
	5-1 障がいのある学生の受け入れ方針および学修支援体制の検討	左記のことにに関して教務委員会および教授会において検討がなされている。				B			
	5-2 学部教育のコアとなる意欲的な学生の確保	拠点校からの入学者数（学部） 20名					B		
		高大の定期的な情報交換会が組織され、学部の授業や行事等に生徒を参加させている拠点校の数：5校以上					C		

IV 評価専門委員会所見

- 5-1【改善】障がいのある学生の学修支援体制に関する検討を進められていることは評価できます。
- 5-2【改善】学部教育のコアとなる学生の確保について、拠点校からの目標入学者数の実現および高大連携の強化を期待します。
- 5-3【改善】入学定員厳格化に伴い、定員超過を避ける工夫を期待します。

V 所見への対応

- 5-3【改善】について、2016年度入試の轍をふまないために、2017年度入試では、入試広報課のサポートのもとに慎重な合否判定を行った。ご指摘のとおり、定員超過を避ける工夫を執行部で継続して検討していきたい。

VI 次年度への課題

本項目の根拠資料（データ類、裏付けとなる資料）

- A5-1 大学案内「CROSSING2017」 <既出>A1-6
- A5-2-1 2017年度 大東文化大学 一般入学試験要項
- A5-2-2 2017年度 外国人留学生募集要項[学部生]
- A5-2-3 2017年度 社会人特別選抜試験要項
- A5-2-4 2017年度 編入学試験要項（3年次編入）（2年次編入）
- A5-2-5 2017年度 科目等履修生募集要項
- A5-3-1 推薦入学試験要項【公募制推薦/自己推薦(前期)(後期)】
- A5-3-2 2017年度 指定校推薦入学試験要項
- A5-3-3 2017年度 大東文化大学第一高等学校推薦入学試験要項
- A5-3-4 2017年度 工学院大学附属高等学校推薦入学試験要項
- A5-3-5 2017年度 スポーツ推薦入学試験要項
- A5-6 大東文化大学学則 <既出>A1-1
- B5-4 大東文化大学入学試験委員会規程
- B5-6 大学HP入試情報 <http://www.daito.ac.jp/admission/index.html>
- B5-11 大学ホームページ（自己点検・評価活動）
<http://www.daito.ac.jp/information/examine/inspection/index.html> <既出>B1-16
- B5-21 大学ホームページ（情報公開）<http://www.daito.ac.jp/information/open/index.html>
<既出>B1-6
- B5-22 大学データ集 <既出>B1-22

<大学基礎データ>

d1-表3 学部・学科、大学院研究科、専門職大学院の志願者・合格者・入学者の推移

d1-表4 学部・学科、大学院研究科、専門職大学院等の学生定員及び在籍学生数

[追加資料]

--